

# コロナ「第3波」から営業守ろう

## 清水衆院議員 58 民商を訪問

「持続化給付金を再度」「消費税5%を」



住之江民商で(後列左は西田さん、右隣は清水さん)

「第3波から営業守れ」—コロナ感染拡大による中小事業者の窮状を聞き、営業を守り、国会論戦に生かすため近畿の民商との懇談を進めている清水ただし衆院議員は9、10の両日、大阪の8つの単位民商(北、都島、城東、住之江、住吉、吹田、岸和田、泉南)を訪問・激励しました。西田さえ子比例候補も4民商との懇談に参加しました。

どこでも、「持続化給付金を再度」「売り上げ50%減の壁をなくして」が強い要望として出されました。「Go To」キャンペーンばかりに税金を投入すること、PCR検査を拡大しないことへの怒り、消費税減税を求める声も出されました。

清水さんは「年を越せるかどうかの瀬戸際だが、何としても営業を守るため力を合わせよう」と激励しました。清水さんの訪問は、この日を含め58単位民商(近畿の総数は129)になりました。

### ●懇談で出された主な声

- 持続化給付金をもう一度、くり返し支給して欲しい。
- ・前年比50%の売り上げ減という条件が厳しい。3~4割ダウンでも、毎月続けば持たない。
- オンラインでの申し込み限定をやめて欲しい。エラーのやり取りについて話が進まない。不正受給の摘発の広がりに合わせて支給についても厳しくなっている。悪だくみしている者と、事業者を救うことを同列にせず、事業者を守る立場で支給を。
- 本来ならば年末で商売人にはみな活気がある時期なのに、悲惨な状況。
- ・病気が悪化する業者や、自殺者も出ている。大阪の民商会員でも自殺者が出てショックだ。

・飲食は大打撃。年末、年始の忘年会・新年会も全てキャンセル。収入が途切れる。春も歓送迎会などがなくなったが、いまはより深刻。

## 奈良 大門さん迎え地域経済懇談会

### 「越年へ地域の駆け込み寺に」

コロナ禍の地域経済と政治のあり方を考える懇談会(党奈良県委員会主催)が13日、奈良市内で行われ予想を上回る65人が参加。大門実紀史参院議員が国会報告しました(写真)。



「年を越せるかどうかの年末を迎えようという時に国会を休んでいいのかわ」と切り出した大門氏は、国会議員団の政府への緊急要請も示しながら、菅政権のコロナ対策での無為無策ぶりを指摘。年末、たくさんの方が年を越せるかどうかの瀬戸際に、各団体、共産党が地域の駆け込み所になろうと呼びかけました。

ゲストハウスを運営する金田充史氏は、以前に大門さんから「『つぶれるくらいなら借りてしのごう』と励まされて多くの方が助かった」と発言し、一部の事業者しか助からないGOTOは中止をと訴えました。

奈良民商の霜鳥純一事務局長は、一番の書き入れ時である忘年会の予約が全く入らないなどの苦境を訴え、持続化給付金も未申請のところがあると発言。全国の6割のシェアを誇る靴下など繊維関連の元役員は、売り先がなくなっている実情を発言。担い手の多くを占める技能実習など外国人労働者の実態の改善も訴えました。

### 20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 68(2020. 12.14)